

ドナウ の 四季

2015年・秋季号・No.28

| | | |
|-------------------------|--------------------|----|
| 集団的自衛権は海外在住邦人に何をもたらすのか | 盛田 常夫 | 1 |
| 父とハンガリー | 赤松 純子 | 2 |
| 欧州への「難民」流入問題をどう考えるか | 盛田 常夫 | 4 |
| ハンガリーな夏休み! 乗馬体験@ヴェスプレーム | 平賀 牧恵 | 6 |
| 言文一致運動と二葉亭四迷 | フィゼレ・キティ | 8 |
| 留学することの喜びと悲しみ | ズゴル・ヴァレンティナ | 9 |
| 日本語広場の紹介 | ヴァシュ 愛、エレク 綾 | 10 |
| みどりの丘補習校 | 上杉 なつき、坂井 実蘭、隅田 理愛 | 11 |
| ブダペスト日本人学校 | 生天目 遥輝、渡辺 一輝 | 12 |

イングリット・フジコ・ヘミング

2015年11月10日(火) 19:30 開演
リスト音楽院大ホール(1061 Budapest, Liszt Ferenc tér 8.)

【プログラム】

シューベルト: 即興曲集 Op.90-3
モーツァルト: ピアノソナタ No.11 KV331
リスト: パガニーニによる大練習曲第6番
シューマン=リスト: 春の宵 S586
リスト: ラ・カンパネラ
ショパン: ピアノ協奏曲第1番

共演: マーヴ交響楽団

指揮: メドヴェツキー・アーダーム

© 中島 英雄

チケット(全席指定):
4000, 3000, 2000 Ft

企画: Propart Hungary Bt.
後援・協力: 在ハンガリー日本大使館, 国際交流基金ブダペスト日本文化センター, マーヴ交響楽団
チケット取扱情報: www.jegy.hu, <http://www.mavzenekar.hu>
リスト音楽院チケットセンター, Interticket.hu 系列各チケットセンター
お問合せ: Propart Hungary Bt. Tel:+36-703815548
Mail: proparthungary@upcmail.hu

Propart Hungary Bt.



集団的自衛権は海外在住邦人に何をもたらすのか

盛田 常夫

日本で「安保」法制と呼ばれる集団的自衛権を容認する法律が国会で採択された。集団的自衛権の容認は国外にいるわれわれにとって無関係なことではない。アメリカが惹き起こす戦争へ武器を持って日本が参戦すれば、海外在住の日本人も攻撃の標的になることを忘れてはならない。

集団的自衛権を容認・行使することが憲法違反であることは、第一次安倍内閣を含め、歴代の自民党政府が繰り返し言明してきたところである。しかし、戦後日本の政治社会の中には、日中戦争を侵略戦争として認めず、朝鮮併合を植民地支配として反省せずに、日本帝国主義の歴史を肯定する集団がそれなりの力をもってきた。「みんなで靖国を参拝する国会議員の会」などという奇妙な政治的示威行為が連綿と続いているのも、その歪(いびつ)な現れの一つである。

1990年代初期の湾岸戦争で、日本が1兆円もの経済支援をしたのに、その貢献が国際的に評価されなかったことから、やはり軍事的な貢献なしには国際的評価は得られないと考える政治家・官僚が増え、憲法9条の改訂をめざし改憲勢力が虎視眈々とその機会を窺ってきた。そして、尖閣諸島の領有権をめぐる争いや、中国の西沙諸島や南沙諸島への海洋進出に対抗すべきだという政治勢力が勢いを得て、解釈改憲を推進してきた。

この集団的自衛権容認派の認識に欠落しているのは、日本がアメリカの軍事的従属下にあるという厳然とした事実だ。日本の保守勢力は戦後の一時期を除き、アメリカの戦後占領から続く軍事駐留に抵抗することを諦めてしまった。その分岐点だが、1960年日米安全保障条約の締結である。安倍晋三の祖父岸信介が首相として、この条約を締結した。当時、戦後最大の安保条約反対デモが国会を包囲し、条約批准の後に、岸首相は辞職せざるを得なかった。アメリカに日本を売り渡した首相の末裔が、今度は、日本をアメリカの戦争の手下に仕立て上げようとしている。

1960年安保条約以後、米軍駐留を法的

に保証する法的枠組みが変更・廃棄されることなく、戦後70年の歴史的長期にわたる米軍駐留という異常事態が存続している。軍事主権を半永久的にアメリカに渡した安保条約への反対運動を抑制するために、安保条約は「自動延長」されて今日に至っている。政治家と官僚は米軍基地の存在を当然のこととして受け入れ、それを「同盟」と読み替え合理化することで、軍事的な主権喪失を隠蔽しようとしてきた。日本の政治家も官僚も、軍事主権をアメリカに渡した現状を合理化する腑抜けたアメリカの従者にすぎない。

軍事主権をアメリカに渡したままの日本は、これまでも、アメリカが世界で惹き起こした戦争に、最大限の貢献を行ってきた。沖縄の施政権返還にあたって確認された核兵器を日本に持ち込まないという約束ですら、暗黙のうちに持ち込みを容認するという密約まで交わし、国民を欺いてきた卑屈な歴代政府である。100万人以上のベトナム人を殺戮したアメリカのベトナム侵略戦争では、日本の米軍基地は最大限に利用された。日本政府はそれにはたいして、抗議すら行っていない。直近のイラク侵略戦争でも、開戦根拠がないにもかかわらず日本はアメリカ(多国籍軍)支援を決定し、サモアに自衛隊を派遣した。しかし、保守派は、この程度の貢献では日本は評価されないと考える。米軍と一緒に武器をもって闘わなければ、国際的評価が得られないと考える。

ベトナム戦争でもイラク戦争でも、日本政府は自らの戦争支援行動の総括を国会で行っていない。いかなる根拠で、何故に戦争の後方支援を行ったのか、戦争が惹き起こした災禍にたいしていかなる補償をおこなったのか。理がない戦争を支援すれば、そこから生じる犠牲や災禍への対応が求められるのは当然である。アメリカと一緒に戦争に加わりながら、その結果については責任を持ちませんという態度は許されない。アメリカは日本と違い、自らが惹き起こした戦争の総括を行っているが、しかしその戦争の災禍にたいして補償することは一切ない。だから、アメリカは世

界のあらゆる地域に敵を作り出す。日本はそのアメリカに従っていけばよいのか。

アメリカの駐留をそのまま受け入れてきた日本である。集団的自衛権とは、これまでの受動的な戦争支援から、アメリカの戦争に積極的に参加することを意味する。主体性のない日本が今以上にアメリカの戦争に組み込まれたらどうなるのか。その先は見えている。今の自民党の政治家に、その事態に耐えられる人物はいない。

そのことは、すでに今現在、もう問われている。アメリカのイラク戦争から始まった中東世界の破壊によって、現在の欧州「難民」問題が生じている。日本はアメリカに追従してきたイラク戦争の結末にたいして、責任はないのか。オバマ大統領は1万人の「難民」を受け入れると表明したが、すぐにそれを1桁増やさざるを得なかった。アメリカが10万人なら、日本は最低でも1万人の難民を受け入れなければならない。今の安倍政権に、その覚悟などあるまい。集団的自衛権を行使するとは、こういうことなのだ。アメリカがやったことだから、日本に責任ありませんなどと頼りできない。

山本太郎議員の焼香牛歩戦術が批判されているが、手のひらを返すように憲法解釈を変え、それに誰も反対しないという自民党の翼賛体質は厳しく批判されるべきだ。入閣出来ないから、選挙で公認が得られないから抵抗しない議員など、国会議員の名に値しない。さほど賢くもないリーダーが牛耳っている政党で、誰も異論を唱えられないという体質ほど怖いものはない。そうやって、戦前の日本も、無意味な戦争にのめり込んでいったのではないのか。

今時の安保法制にたいしては社会の各層の人々から反対の声があがった。改憲派として知られる人々ですら反対した。今国会で採択すべきでないという世論が7割に達したにもかかわらず、採決を強行した安倍政権に、どんな算段があるというのだ。

(もりた・つねお

「ドナウの四季」編集長)

父とハンガリー

「飛行場からすぐラーコシュケレストウールの共同墓地への道を彼は進んだ。何故なら、日本の慣習により、コズマ・イシュトヴァーンの墓前へ挨拶することを欲したからである。1964年、東京オリンピックの時、ヤマモト・タカオとこの巨人は友情を結んだ。この友情ゆえに一度、ブタペストを訪問することを約束した。ただ、コズマとはすでに会うことはできなかった・・・」(ハンガリーの新聞「ネーブ・シュボルト／人民スポーツ」より)。

高校教師であった父、故山本崇夫はレスリング・柔道の指導者でもあり、アジアで初めて開かれたオリンピックに補助役員として参加し、高校時代から心を寄せていたハンガリーの選手団付を希望しました。グレコロマン・ヘビー級でレスリングの王者コズマ(1964年東京と1968年メキシコの五輪王者)との親交から文通が始まり、独学でハンガリー語を勉強しました。当時は文法書が1冊しかなかったため、英語やドイツ語で書かれた辞書を手し、上京した折にはハンガリー大使館の通商部で半年分溜め込んだ疑問点を教えていただいたそうです。コズマからハンガリーに誘われ、再会を心待ちにしていたが、1970年4月に突然の悲報が届きました。彼はホンヴェード通りでバスと激突し、30歳の若さで亡くなりました。ミュンヘンに向けて3個目の金メダルの獲得を期待されていた矢先のことでした。冒頭の記事はコズマ他界の翌年、コズマから父の名前を聞いていたブダペストのスパルタクス・スポーツクラブの力添えで、柔道コーチとして招待された時のものです。当時のスパルタクスは靴商・毛皮商の組合で、柔道・サッカー・レスリングなど14種目のスポーツクラブには約1000人の部員が所属していたそうです。



東京オリンピックでのコズマと山本

ハンガリー柔道の歴史は長く、日露戦争の勝利は柔道の気力に負うところが大きいと考えたセイミアー氏は嘉納治五郎氏に依頼し、佐々木吉三郎氏が1906年に指導者として訪れたことで第一歩を踏み出しました。スポーツが多くの人にとって二次的

なものとなった第二次世界大戦中でさえ、柔道を愛好したハンガリー人は毎年大会を開催しました。「更に本場の柔道を感じ、見たいと望んでいたが、政治的な環境と経済的な制約により実現が難しかった」と当時のスパルタクスの監督は述べています。

父はセゲー・アンドラーシュ氏(ジャーナリスト)の家に滞在し、ナショナル・チームを指導しました。柔道に対する尊敬と日本で柔道を学びたいという希望が強く、真剣に稽古に取り組んだそうです。多くの友人やスポーツ関係者と親交を深め、帰国後は所属する群馬県柔道連盟が中心となって準備を重ね、1973年にスパルタクスの柔道チームを招待することができました。日

赤松 純子

本柔道が伝えられてから70年、ハンガリー柔道家の来日は彼らが初めてでした。ソ連の客船ジェルチンスキー号で横浜港に到着した選手たちは、講道館をはじめ各地で指導を受けましたが、オリンピックや世界選手権の日本人優勝者を残らず知っていて、われ先と稽古をつけてもらったそうです。前橋市でも親善試合が行われ、赤城山の麓にハンガリーと日本の国旗が高々と掲げられ、関係者の家族は総出で迎えました。畳に座り日本酒とトカイワインを互いに交わし、拙い会話ながら賑やかな夜を過ごしたことは、今でも記憶に残っています。

1974年は群馬の柔道チームがハンガリーを訪問。そして1976年にはスパルタクスが2度目の来日。国際試合の傍ら、様々な交流が続きました。日本に滞在した指導者や選手は欧州大会や世界選手権で大きな成果を上げ、バルセロナ五輪では金メダル1個、2階級で銀メダルを獲得するなどの実績を残し、ハンガリー柔道を印象づけました。わが家にも多くのハンガリー人が訪れましたが、柔道以外にもボクシングの五輪チャンピオン、パ

ップ・ラスロー氏(ロンドン・ヘルシンキ・メルボルンの3大会制覇)が滞在したこともよい思い出です。県下の高校ボクシングクラブで指導を受けた生徒達の、震えるような興奮と感激は今でも忘れられません。

1989年、父はエスポワール・レスリング世界選手権に日本選手団副団長としてハンガリーを再訪。この時、富士山の石をコズマの墓へ備えたことは、現地の新聞やテレビでも話題になりました。「ハンガリー柔道選手権大会会場、その隣で完成にわくエスポワール・レスリング世界選手権大会会場で私たちはヤマモト・タカオに会うことができた。50歳の高等学校教師、かつては柔

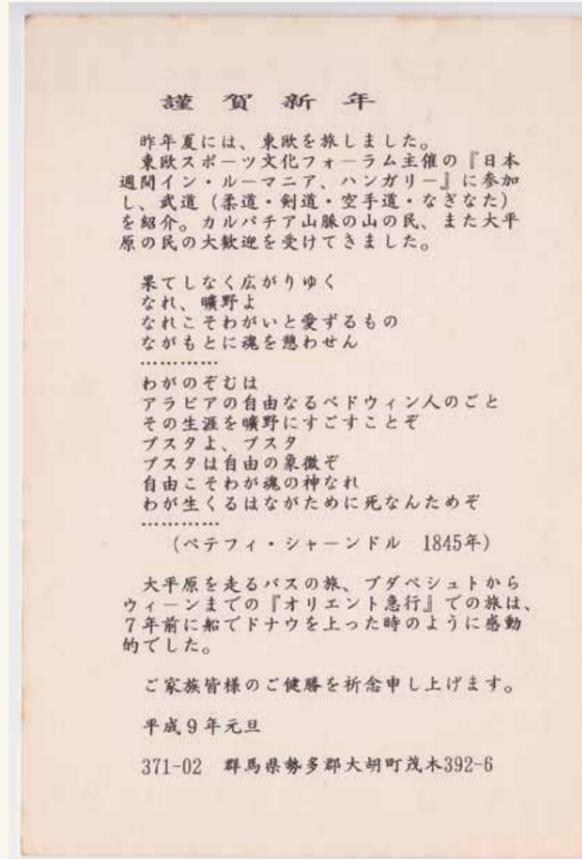
道家として、今回はレスリング・ナショナルチームの指導者として、……出発前に富士山へ登り石を集め、親友コズマの墓へ備えました。ヤマモト・タカオの姿を私たちハンガリー人は忘れません。決して」(人民スポーツより)。

ハンガリーを含めて欧州各地で武道の紹介や国際試合に関わりましたが、夢半ばの2009年、間質性肺炎のため71歳で亡くなりました。多くの弔電がヤマモト・タカオのもとに届けられました。

父の遺志を胸に、翌年ハンガリー各地を御礼を兼ねて訪問しました。行く先々で懐かしい友人達から家族のように温かく迎えられ、「タカオのために」と何度も盃を交わしました。ケチケメートではコヴァーチ・シャーンドル氏や、弟で詩人のイシュトヴァーン、そして来日した選手にも会うことができました。コヴァーチ氏はコズマの友人で、30年にわたり父と100通近い書簡を交わしたレスリングの名指導者で、「Haikuk Takao(タカオの思い出)」という一遍の詩を私たちに送って下さいました。

エゲラーグで訪ねたサボー・フェレンツ氏の柔道場では、群馬県出身の福田超夫元首相(当時大蔵大臣)の手紙が入口に飾られ、37年前の赤城山と同じくハンガリーと日本の国旗が掲げられていました。来日当時、ヨーロッパ・ジュニアで活躍していたサボー氏は、指導者であ

るとともにシニアの競技者として成功し、6人の子供達全員が柔道を学び、今では国を代表する選手に成長しています。道場の前には父の名が刻まれたメモリアルの木柱が建てられ、柔道着を着て整列した多くの生徒達が黙とうを捧げてくれました。「ジョケル(草の根)」と呼ばれた父が、天国でどんなに喜んだことでしょう。「強いもの



年賀状に載せられた詩

が勝つのがスポーツの公理で今や世界のJUDOだが、柔道発祥地の日本人柔道家として誇りを持ち、古柔道と共にその精神を身につけなければ」と自戒を込めながら、

自らも学び続け、指導教育に注いだ生涯でした。

父の書齋には、今でも陶器やカロチャ刺繍が大切に飾られ、ハンガリーから持ち帰った本やレコード、楽譜などがそのままに並んでいます。ハンガリーの歴史や文学、とりわけ詩を愛した父は、多くの詩訳を残しました。クラシック音楽がいつも家で流れており、私にピアノとヴァイオリンを習わせてくれたことが、夫となる林太郎との出会いにもなりました。今年の春、ドナウ宮殿に多くの友人を招待して、生前の父が好きだったベートーベンのピアノ協奏曲を夫の演奏で聴くことができました。

夫は今、ハンガリーに拠点をもち、ピアニストの卵をリスト音楽院のマスタークラスで指導しているのは前号の通りですが、本場で学びたいという思いは50年前の柔道選手と同じものだと感じています。若い柔道部員が練習の合間にオペラの話をしていることに感心していた父ですが、日本と全く違う土地に身を置いて聴衆の評価を得ることは、夫自身も乗り越えてきたところでした。コズマと父の友情に発した半世紀にわたる縁ですが、今後も新たな出会いを楽しみに、ハンガリーを訪ねていきたいと思えます。

(あかまつ・じゅんこ)

編集部よりのお知らせ



「ドナウの四季」のHPが完成しました。これまで掲載されたすべての原稿を読むことができます。 <http://www.danube4seasons.com> 皆様の原稿をお待ちしています。エッセイ、ハンガリー履歴書、自己紹介、サークル紹介などの記事をお寄せください。提出いただいた原稿は、紙面統一の編集のために修正することがあります。修正した原稿は執筆者の校正をお願いしています。原稿は電子ファイルで、morita.magyar@gmail.comへお送りください。Word文書あるいは一太郎文書をお願いします。EXCEL形式での提出はお控えください。写真および図形は別ファイルで送付ください。

欧州への「難民」流入問題をどう考えるか

盛田　常夫

シリア人を中心とする大量難民の欧州移動は当該社会のアイデンティティにかかわる問題になりつつある。

ハンガリーは今年8月まで、1年間で20万人の「難民」対処にあたってきた。9月の大量流入が始まる2ヶ月以上前に、ハンガリー政府はギリシア、マケドニア、セルビアを經由して、EUのシェンゲン条約(EU内自由移動圏)境界であるハンガリーへ入国しようとする大量難民の対策を指示していた。本来であれば、難民が最初に到達したEU国であるギリシアで難民登録が実施されなければならないが、そこを素通りしているため、次のシェンゲン条約の境界にあたるハンガリーがEU加盟国としての難民対応を迫られている。ハンガリー政府が国境に鉄条網を張ることを決定した当時、冷戦時代への逆行だという国際的非難が投げかけられた。しかし、連日千人を超える難民が入国すれば、ハンガリーがダブリン条約に規定された義務を遂行することは不可能である。もしそれを実行しようすれば、多くの難民を長期間にわたって、国境地域に留め置くことが必要になる。それどころか、シェンゲン条約国として入国管理すら遂行不能である。

シリア人たちの難民流入者がさらに増加したのは、ドイツのメルケル首相が受入れを歓迎すると表明した9月5日以降である。メルケル首相はEUの難民の対応措置を決めたダブリン条約(最初のEU到着国で難民申請・登録を行う)を一時的に停止して、ハンガリーからの難民を全面的に受け入れることを宣言した。これが「難民」流入を加速させた。この宣言を聞いてシリアから出発した数千数万の人々に、他国の「難民」が加わり、5~6日かけて、ギリシア、マケドニア、セルビアを經由し大量の「難民」がハンガリー国境にたどり着いた。

いったんは大見栄を切ったドイツだが、難民の数があまりに多く、ザルツブルグからミュンヘンへと続く国境地帯の混乱がひどくなり、メルケル首相は宣言の修正に迫られた。無制限受入れを表明したメルケル首相には国内からも批判が強く、メルケル

首相は、「誰でも無条件で引き受けるということではなく、経済的難民は対象外である」と修正表明を余儀なくされた。それに伴い、オーストリアとの国境で入国管理を実施し、経済的な難民を排除する姿勢を明確にした。オーストリアもドイツに習って、ハンガリーとの国境での入国管理を実施することになり、列車のみならず、ウィーンとブダペストを結ぶ高速道路を上下線とも閉鎖した。

こうして、オーストリアもドイツも、国際列車運行を一時的に止め、入国管理を導入して、難民流入の入り口を狭める措置を導入した。明らかにハンガリー政府を一方的に非難していたドイツやオーストリアの政治家は、事態の深刻さを過小評価していた。

ハンガリー政府は9月15日深夜を期限に、入国管理の検問所のないハンガリー国境線からの入国を厳格に取り締まる法律を発効させ、指定の出入国地点以外の往来を禁止した。

シェンゲン条約国への入国

鉄条網があろうがなかろうが、検問所を通らない国境通過は不法入国である。それは世界の法治国家の共通のルールである。国境線にフェンスを作ったら「グアンタナモ基地」だと騒ぎ、難民の取り扱いがぞんざいだから非人道的だという報道は、事の本質を見誤っている。フェンスがないから誰もが、何時でも自由に入国できるわけではない。シェンゲン条約の境界線での入国管理は、誰もが受けなければならない法的義務であり、国境地帯には検問所を通過しない入国は不法入国であるという看板が立てられている。難民だから、ドイツが受入を表明しているから、入国管理を受けなくて良いはずがない。

観光客であっても、EUシェンゲン条約国への入国にあたってはパスポートの渡航履歴が念入りにチェックされる。欧州に展開している日系企業は、日本人派遣社員の経費を節約するために、長期出張で対応することがある。しかし、過去1年間に、EU加盟国での居住が6ヶ月を超える日本人出張

者は入国審査ではねられ、その場で日本への帰国が命じられる。これは日系企業が良く経験している事例である。

国際ルールとして、当該国あるいはEU圏に半年以上居住する場合は、居住許可を取得することが義務になっている。所得税の納付も、居住国で行うのが国際的ルールである。6ヶ月以上の滞在には、当該国の滞在許可証がなければならない。滞在許可証を保持していない日本人社員は、最初に到着したEU国の入国審査で排除される。

観光でなく、経済的活動で金銭的な支払いが伴う人物の入国は、短期間であっても、短期の労働許可証を事前に取得していなければ、同じく入国が許可されない。また、長期の労働ビザ＝滞在許可を得るためには、事前に、当該国の駐日大使館で事前に必要なビザを取得しなければ渡航できない。また、長期労働に従事する場合の労働ビザ取得は簡単ではなく、国によって労働ビザ取得の難易度が異なるが、一定の時間を要する点はどこも同じである。

このように、EU域内はパスポートなしでも移動可能だが、最初にEU加盟国に入国する場合には、厳しい審査が待ち受けている。パスポートの履歴をそれほどチェックしないケースもあるが、最近はどの国でもかなり厳しいチェックが行われている。

難民認定は簡単ではない

通常の経済活動に従事する者の審査以上に厳しいのが、難民認定である。ハンガリーの場合は、一応、認定期間は30日と定められているが、必要書類が整っていない場合はその期間は無限に延長される。ドイツですら、難民認定に数ヶ月から1年もかかる。

現在、ハンガリー国境に押し寄せる「難民」の多くはシリア人だが、実態は多様で、コソボ人、パキスタン人、アフガン人、イラク人など多様な人々が混じっている。パスポートを持っている者もいれば、持たない者もいる。偽造パスポートの可能性もある。ISの戦闘員が混ざっていることも十分考えられる。そういう「難民」が1日に千人

以上も国境に到着したら、ハンガリー政府は手の打ちようがない。難民認定を厳密にすれば、何万人もの難民がハンガリー国境に放置される。

想像を超える大量の難民が国境に押し寄せたために、ダブリン条約とシェンゲン条約にもとづく国境管理と難民登録・認定の作業を厳格に行うことが不可能になった。厳密に行おうとすれば、難民にたいして厳しく対応しなければならない。それがハンガリーに対する国際的批判を呼び起こした。

ハンガリーにたいする国際批判

「難民」にたいする厳しい対応を、国際メディアは「非人道的仕打ち」として世界に配信した。国境のフェンスを壊して不法に侵入した難民を静止する警官から逃れようとする難民に足を出して転倒させようとした女性カメラマンの映像は、世界に配信された。さらにCNNは、「シリア人父子が国境を目指すなか、女性カメラマンに足を掛けられて転倒した」と報道した。しかし、そのビデオを見ると、警官に肩を押された父子が、畑の盛り土に足を取られて転倒している。件の女性カメラマンは近くにいて、転倒する際に足を上げているが、距離があって届いていない。しかし、実際に起きた事態とは関係なく、この光景はハンガリーの無慈悲で、冷酷な仕打ちとして世界に配信され、逆にこの父子がスペインに到着して歓迎を受けたことが「美談」として語られている。CNNの「国境を目指すなか」という報道も間違いである。不法入国しているか、難民収容所への連行を嫌う難民が、警官から逃れようとする状況が撮影されているのである。

国際メディアがハンガリー政府の難民対応を非難し、欧州の西側諸国もハンガリー政府の対応を非人道的と非難する背景には、ハンガリーの民族主義的右派政権と欧米諸国との関係が良くなく、他方で腐敗にまみれ国民の支持を失ったハンガリーの「左翼」勢力が、ハンガリー国外の欧州左翼の力を借りて外からハンガリー政府批判を行っているという事情がある。だから、ハンガリー政府がとる政策措置は何ごとに付けても反民主主義、オルバン首相は偏

狭な右翼民族主義、排外主義の全体主義者というレッテルが貼られる。それに習って、ハンガリーに來たこともない欧米のジャーナリストが安易にこのレッテルをハンガリー政府批判の枕詞として使っている。

確かにオルバン政府の対EU政策には偏狭な民族主義的なものもあるが、それと現在の国境管理・難民問題を一緒くたにすることはできない。現政府が民族主義政府だからという理由で、ハンガリーの措置が一方的に、かつイデオロギー的に非難されるのは、公平性に欠ける。現在の難民問題はイデオロギーを超えた当該社会のアイデンティティの問題っており、人道支援の域を遙かに超えている。

なぜ旧東欧諸国が難民受入れに抵抗するのか

フランスは旧植民地からの移民を受け入れてきた歴史があり、難民の受入れにそれほど抵抗感はない。ドイツも第二次世界大戦におけるユダヤ人迫害・虐殺の歴史から人道的支援には積極的で、すでに一昔前からトルコや旧ユーゴスラビアのゲストワーカーを受け入れてきた歴史もあり、ドイツは多民族国家に変貌しつつある。ミュンヘンの地下鉄に乗ると、一瞬、どこの国にいるのか分からなくなるほど、多種の言語が聞こえてくる。ゲストワーカーやイスラム圏の人々の他に、ロシア語も聞こえてくる。大きな列車の中央駅の内部はきちんと清掃されているが、駅周辺の路地は国外から移住したと思われる多様な人々が小さな店舗を構える雑居路地になり、綺麗に清掃された昔のドイツの路地とは様変わりしている。ゲストワーカーや移民労働者は、ドイツ人が嫌がる仕事に従事している場合が多く、すでにこれらの労働力の存在は当該社会にビルトインされている。それで良いと考えているドイツ人もいれば、社会の変貌を嘆くドイツ人もいる。表向き、歓迎の意思を表明しているからと言って、それが社会全体の意思であるとは限らない。

これにたいして、旧東欧諸国は市場経済の発展途上にあり、失業率も高い。したがって、難民を労働力として計算することはできない。難民の社会保険や居住施設の

確保を行う余裕もない。さらに、東欧の小国はキリスト教文化で一体化しており、そこにキリスト教社会との同化を拒む異教・異文化の集団を受け入れることを望んでいない。

日本にとって対岸の火事ですむか

現在の難民問題を振り返ってみれば、その発端はアメリカのイラク侵略戦争にある。イラク戦争以後、中東地域が不安定化しただけでなく、通常の国際移動にも、多くの制限がかけられるようになった。爪切りまで刃物扱いを受けて没収され、水分の入った容器の持ち込みが制限されるなど、ふつうの旅行にすらさまざまな制限がかかるようになった。

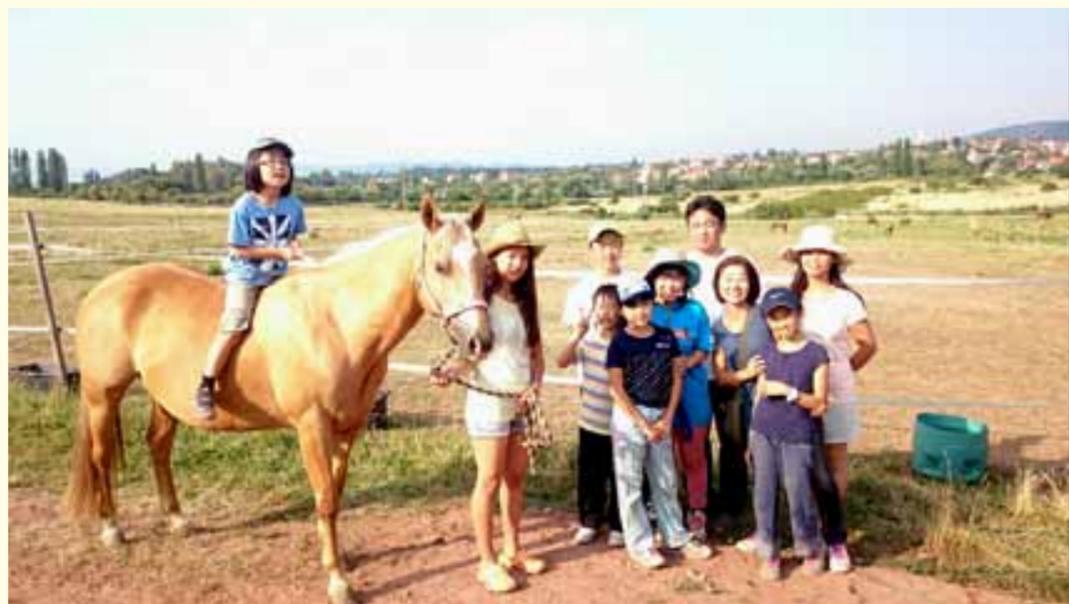
ブッシュの戦争は、中東世界という蜂の巣を突いて、蜂が四方八方に飛び散る状態を惹き起こした。この戦争をいち早く支持し、軍隊を派遣したイギリスやフランスなどの諸国はアメリカと同罪である。支援根拠が薄弱なまま、アメリカの後尾を追いかけた日本にも、それなりの責任がある。そして、旧東欧諸国はこぞってアメリカのイラク侵略戦争を支援し、ハンガリーは軍隊まで派遣した(社会党ジュルチャーニイ政権)。それが回り回って、難民の大量流入という形でつげが回ってくるとは誰も思わなかっただろうが、中東世界を壊した一端を担ったのなら、その結末の一部を受け入れることは拒否できまい。

ところで、イラク戦争を始めたアメリカはどうか。オバマ大統領は当初難民を1万人引き受けることを表明したが、その後1桁増やさざるを得なかった。これでももう一つゼロが足りない。現在の難民問題はアメリカ自らが惹き起こした戦争の結末である。他人事ではないはずだが、アメリカには当事者意識が欠如している。アメリカがこうなら、アメリカの尻を追いかけてきた日本に、当事者意識などあろうはずもない。アメリカ以上に他人事だ。こういう脳天気な日本が、アメリカの戦争に荷担したらどうなるのか。その結末を引き受ける覚悟など、まったくないだろう。

(もりた・つねお　2015年9月)

ハンガリーな夏休み！ 乗馬体験@ヴェスプレーム

平賀 牧恵



【バラトン湖に近いLovas村で、こども国際乗馬合宿が開催されます。ハンガリーは知る人ぞ知る乗馬王国。これまで一度も馬の背に座ったことのない方も是非この機会にお試し下さい。】

こんな情報を目にしたのは今年の6月の初め。もう、見たとたん「よっしゃー!」と思いました。

ハンガリーで過ごす2度めの夏。近隣諸国への旅行ももちろん魅力的だけど、そっちらばかりに目を向けていると、今住んでいるこの国のことは意外と知らないまま帰国・・・なんてことになりそうで、それってもったいないよねえ、どこか国内で楽しめる場所、しかも子どもも喜んでくれそうなどころないかなあ、などと思っていたところでした。

早速こういうことには反応良さそうなお近所M家を誘ってみたら二つ返事でOK。日程の関係で、残念ながら我が家の夫のみ参加できませんでしたが、M家の家族5人+我が家3人の合計8人で申し込みました。

案内には【こども国際乗馬合宿】となっていました。1週間コースの定員8人ぴった

りだった私たちは、特別に親子ひっくるめて乗馬体験をさせてもらえることとなり・・・ラッキーなこと【夏休みファミリー乗馬合宿】に。

ということで、今日はこの夏休みに参加した、「ハンガリー」がギュッと詰まった乗馬合宿をここで紹介させていただきます。

ハンガリーの海(と言われる)バラトン湖にほど近いロバシュ(Lovas)村に、今回の乗馬合宿の舞台となる乗馬クラブがありました。

私たち親子が宿泊していたヴェスプレーム(veszprém)のB&B(Bed and Breakfast:朝食付き民宿的宿泊施設)からこの乗馬クラブまでは車で20分ほど。公共のバスも通っていました。そして自家用車を持つM家が宿泊したのは乗馬クラブから車で約10分のCsopakという街にある一軒家。参加者のニーズに応じて宿泊場所も選べるのが魅力です。

丘陵地からは遠くにバラトン湖が望める乗馬クラブ。まだ真新しい厩舎の横では作業員のおじさんがパンを焼くための釜を作っていました。将来的にはこの敷地内に宿

泊施設も作りたい・・・とオーナーさんは言っているとか。何年か後にはこの乗馬クラブに隣接する宿泊施設を利用しながら毎日乗馬体験ができるようになるのかもしれない。

さて、私たちが乗馬合宿に参加したのは8月10日(月)～14日(金)までの5日間。

5日間のコースは2つ。午前も午後馬に乗る「1日コース」と午前が乗馬レッスン、午後はフリーの「半日コース」。

私たちが選んだのは「半日コース」。ほとんどが乗馬初心者だったことと、自然いっぱい環境でいろいろな体験を・・・という思いもあっての選択でしたが、でもこれが大正解でした。

例年のない猛暑となったこの夏の8月のど真ん中。

この5日間も毎日、これでもか、というほどの暑さ。確か最高気温が31～32℃くらいまで下がった最終日に「今日はちょっと過ごし易くてよかったですね」などと話したような記憶が。こんな暑さの中で日中ほとんど外にいて乗馬のレッスンをする「1日コ

ース」は・・・想像しただけでめまいがします。もちろんもっと気候のいい時期には「1日コース」で短期上達を目指すのもいいかと思いますが。

人が暑ければ馬も暑い。

いつもは乗馬のレッスン時間が終わると広い草地でのんびり過ごす馬たちも、この暑さの中では大変ということで午後は厩舎の中で過ごさせてもらっていました。この「草地から厩舎へ馬たちを連れてくる」というお仕事も、子どもたちは率先してお手伝い。

その他にも、乗馬レッスン前後のブラッシング、厩舎のそうじ、厩舎の床に敷く牧草集めなど、「馬に乗る」ことだけではない色々な体験もさせてもらいました。

そして、メインの「乗馬レッスン」に関しては・・・

もう、これは素人の私がどこまできちんと書けるかわからないのですが、とにかく他では考えられないくらいの恵まれたゴージャスな環境、待遇と言いましょか。

まず、子どもたちをメインに指導してくださっていたMarcsi(マルチ)さんが素晴らしかった！自身も乗馬の大会への出場経験を持つ彼女は、すでにコーチ歴20年のベテランインストラクター。初めて馬に乗った子ども相手でも、その子の様子を見つつ「背中の上に立ってみる?」、「後ろ向きに座ってみようか」・・・などとちょっとびっくりするようなことを織り交ぜながらの指導。そして実際にいろんなことをやらせてくれる。指導を受けている子どもたちは、「あれれ?」と思っているうちに馬の背に立ったり、ペタンと寝そべったり、後ろ向きに座ったまま進んだり・・・いろんなことができちゃって、という感覚の様子。1人30分程度レッスン時間はあっという間に過ぎてしまします。

初日は乗馬クラブ内で基礎的な乗り方を教わり、その翌日は、レッスン2日目にして外乗(がいじょう)体験。馬に乗って乗馬クラブの周辺をぐるっとお散歩。途中小さ

な川を渡ったりしながら平坦ではない道をゆっくり歩いて行くことは、馬の上でのバランス感覚を養う上でとっても大切なことだとか。こちらは「え?もうお散歩させてもらえるの?」くらいの気持ちで楽しんでいるのですが、これもまた意味のあるレッスン。

3日目はレッスンの後に厩舎に敷き詰める干し草集めの作業をお手伝い。そしてみんな厩舎そうじ。

4日目は2度目の外乗レッスンの後に、陶磁器で有名なヘレンド村へ足を伸ばしてランチ、そしてヘレンド工場見学。さらに夕方はハンガリーの歴史の中でも重要な地位を保ち続けてきた宗教都市ヴェスプレーム(veszprém)の街を散策。これらは今回の乗馬合宿のコーディネータを務めてくださっている森田友子さんによる日本語の案内付き。

そして5日目最終日には、わずか10歳でウェスタンスタイルの大会でヨーロッパ・チャンピオンになったというサラさん(この乗馬クラブのオーナーのお嬢さん、現在18歳)による「世界レベルの技のデモンストレーション」。「馬と一体になった姿」とはまさにこのこと・・・と言えるものを、そしてその姿で繰り広げられる美しい技を目の前で見せてもらうことが出来ました。

そもそもこの乗馬クラブは、オーナーのシャンドールさんが、8歳から国際大会に出場し10歳でヨーロッパ・チャンピオンになったという娘さん(サラさん)のために作ったものだとか。そして、馬もインストラクターも馬の世話をする人たちも一流の人を揃えたのだとか。なんとも贅沢な話です。

でも、確かにここにいた馬たちは毛並みの艶もよく、そしてなんと言っても穏やかな気質でお行儀が良い。広々とした恵まれた環境の中、オーナーさんはじめスタッフの皆さんの愛情に包まれながら、ストレスのない満ち足りた毎日を送ることができているのでしょう。

そして「馬が大好き」というオーラいっぱいのインストラクターはじめスタッフの皆さん。

「乗馬クラブを作って一儲けしよう」とい

うのがスタートではないことが、素人目にもはっきり分かる環境でした。

馬が好きで好きで、だから毎日のように乗馬クラブに遊びに(手伝いに?)来ていた近所に住む女の子ラティ。そんなラティにも優しく声掛けをしながら時には手伝いをお願いし、時には馬に乗せてあげていたスタッフたち。

いいなあ・・・この環境、この人間関係。そんなふう思いながらあっという間に5日間は過ぎました。

豪華なホテルや有名レストランでのグルメな食事はなかったけれど、ハンガリーらしい素朴さと味わい深さいっぱい「夏休み」を体験することができたなあ・・・と、今、この5日間の写真を見ながらつくづく思います。

さて、来年の夏休みはどこでなにをしようかな・・・

我が家の娘は「来年も乗馬合宿に行きたい」と言っていますが(笑)

ハンガリー乗馬倶楽部 PREM ~veszprem.exblog.jp~ : <http://veszprem.exblog.jp/i0>

(ひらが・まきえ)

言文一致運動と二葉亭四迷

Ficzere Kitti

私は今、エルテ大学の日本学科修士課程で「言文一致運動」という言語改革運動と、推進者の1人である二葉亭四迷について研究しています。

まず、言文一致とは何でしょうか。皆さまもご存知の通り、「言」は話し言葉を、「文」は書き言葉を示しています。つまり、「言文一致」とは、この二つが一致して、語法上、日常で使われる話し言葉に近い形で文章が書かれることです。また、そのようであればならないとする考え方、およびその運動を「言文一致運動」といいます。言文一致を実現するためには、書き言葉で使われる語彙や文法を話し言葉と一致させなければなりません。

言文一致運動に至るまでの歴史をかんたんにまとめると、平安時代には、話し言葉と書き言葉の違いはほとんどありませんでした。しかし、鎌倉時代に入ると、両者の隔たりは大きくなっていきます。そして、鎌倉時代から江戸時代の末にかけて、話すときに使用される言葉と書くときに使用される言葉はどんどん別なものになっていきました。

日本人が言文一致の必要性に気づいたきっかけは、1867年の明治維新に始まる西洋文明との出会いでした。言文一致の実践者と言えば、福沢諭吉や、前島密や、尾崎紅葉や、山田美妙や、二葉亭四迷などを思い出す方が多いかもしれません。これらすべての啓蒙家が目標にしたのは、できるだけやさしい言葉を使いながら、読みやすく、頭に入りやすい文章を書くことでした。

しかし、言文一致運動は1890年代に、二回も暗礁に乗り上げるようになります。一つの理由として考えられるのは、日本語の場合、話すのと同じように書こうとすると、必ず人間関係・上下関係が問題になることです。とりわけ、文末表現をどの言葉にするかによって、地の文中の言葉まで制約されてきます。ここから、言文一致運動において文末表現一致の試みが始まりました。例えば二葉亭四迷は「だ」、山田美妙は「です」、嵯峨の屋御室は「であります」、尾崎紅葉は「である」体を使っていました。

言文一致運動を復活させたのは文学者の尾崎紅葉(1867～1903)でした。紅葉は「地の文と会話文が調和してこそ作品が

生きる」と主張しました。言文一致体を使用し始めて、「である」調の文末を勧めました。紅葉は明治文壇の一大結社「硯友社」を結成したため、有力な提唱者として、あらゆることの要となっていました。その影響を受け、一般の作家も、彼が使っていた「である」体で小説を書くようになりました。例えば、二葉亭四迷も『浮雲』で、「である」体を使っていました。

二葉亭四迷(1864～1909)は言文一致体と優れた心理描写・内面描写で新生面を開いた近代文学の有名な小説家および翻訳者です。

私は四迷のことを、人間的に尊敬できる、見習うべき人物だと思っています。生活は安定しませんでした。多くの分野で活躍し、最後まで色々な試みをしてきたからです。彼は社会問題に深い興味を持っており、外交官にもなりたかったのですが、ロシアからの亡命者ニコライ・グレーの文学論を読んで、社会主義に開眼し、文学への興味を強めました。したがって、学んだ様々な外国語の中でロシア語に最も興味を抱き、特にロシア文学から多くの作品を翻訳しています。外国語や外国の事情に関する知識が明治維新以後、日本で急速に発展したことに関し、それが独立を保っていくために重要であることを四迷は理解していました。

文学の道を目指す四迷は、坪内逍遙(1859～1935)という評論家の『小説神髓』(1885年)を読んで、自分の書きたい小説の文体に迷い、逍遙に相談しました。逍遙から明治落語家の三遊亭円朝(1839～1900)の落語のように書くことを勧められ、四迷はこの忠告を受け入れて、日本最初の近代写実主義小説『浮雲』(1887～1889)を書いています。その20年後に、再び小説『其面影』(1906年)と『平凡』(1907年)を描いて、言文一致体に取り組みました。

私は、言文一致運動は「日本語」の歴史における最も重要な活動だったと思っています。なぜかと言うと、日本国民と日本語学習者はすべて、これをきっかけにして、言文一致体で文章を書き、また読めるようになったからです。ですから、私は四迷に感謝しています。

(フィゼレ・キティ)



最後まで色々な試みをしてきたからです。彼は社会問題に深い興味を持っており、外交官にもなりたかったのですが、ロシアからの亡命者ニコライ・グレーの文学論を読んで、社会主義に開眼し、文学への興味を強めました。したがって、学んだ様々な外国語の中でロシア語に最も興味を抱き、特にロシア文学から多くの作品を翻訳しています。外国語や外国の事情に関する知識が明治維新以後、日本で急速に発展したことに関し、それが独立を保っていくために重要であることを四迷は理解していました。

文学の道を目指す四迷は、坪内逍遙(1859～1935)という評論家の『小説神髓』(1885年)を読んで、自分の書きたい小説の文体に迷い、逍遙に相談しました。逍遙から明治落語家の三遊亭円朝(1839～1900)の落語のように書くことを勧められ、四迷はこの忠告を受け入れて、日本最初の近代写実主義小説『浮雲』(1887～1889)を書いています。その20年後に、再び小説『其面影』(1906年)と『平凡』(1907年)を描いて、言文一致体に取り組みました。

私は、言文一致運動は「日本語」の歴史における最も重要な活動だったと思っています。なぜかと言うと、日本国民と日本語学習者はすべて、これをきっかけにして、言文一致体で文章を書き、また読めるようになったからです。ですから、私は四迷に感謝しています。

私は、言文一致運動は「日本語」の歴史における最も重要な活動だったと思っています。なぜかと言うと、日本国民と日本語学習者はすべて、これをきっかけにして、言文一致体で文章を書き、また読めるようになったからです。ですから、私は四迷に感謝しています。

(フィゼレ・キティ)

留学することの喜びと悲しみ

Zugor Valentina

私は去年カーロリ大学のコミュニケーション学科とメディア学科を卒業し、現在同大学の日本学修士課程で勉強をしています。2年前、交換留学生として日本の城西大学で勉強させて頂きました。現代政策学部社会経済システム学科で勉強しつつ、日本での生活を体験したり、日本人でも他の国からの留学生とも友達をたくさん作ったりしました。帰国してからずっと、日本留学の1年間は今までの人生の最高の1年間でしたと皆に言っています。それはそうなのですが、最近留学ということについてよく考えています。

留学は最高に楽しいことですが、同時にそれを終えてしまうと何よりも寂しいことになります。半年か1年間を外国の国で過ごすとその国は親しくなってきます。留学先の城西大学は埼玉県の坂戸市の周辺にあり、坂戸市にすることはだんだんと自然になりました。しかも、坂戸市だけではなく後期は学校法人城西大学の東京キャンパスでも授業をとっていました。そのため、池袋駅まで定期券を持っていて、行きたいだけ東京に行くことも自然でした。今も時々、「坂戸市のショッピングモールで日本の映画を観に行きたい」、「週末原宿で買い物したい」、「友達と次は代々木公園を散歩したい」などの気持ちが突然わき起こってきます。留学しているときは普通にできることだったのに、今は日本に行きたくても、航空券が高くて、飛行機が

時間をかかりすぎて、そんな簡単には行けません。留学中できた友達に連絡して、「土曜日どこ行かない?」と聞きたいけど、それも無理だと分かっています。それよりも、また日本に戻っても同じようにならないことが寂しいです。旅行で、仕事で、また別の留学で日本に行っても、前の留学生活にはもう戻ることができません。日本にいても、坂戸駅で越生行きの電車に乗って9時半の授業に城西大学の方へ行かないだろう。その時はもう城西大学の留学生ではないのです。もし、城西大学に通学しても、多くの友達はまだ卒業しただろう。こう考えると、物凄く寂しいです。

また、留学のおかげで日本語能が上達しました。留学前は日本語

に自信がなくて日本人と話すのが苦手でしたが、帰国後初めてハンガリーに留学している日本人の留学生と仲良くなりました。ハンガリーに留学していた日本人の学生と友達になり、自分の国を紹介したり、1年間は一緒に色々遊んだりしていました。この1年間は私にとって第二留学のように感じていました。またまた最高に楽しかったです。しかし、1年間がまた終わって、離れるのもまた同じように寂しかったです。こんなに悲しくなるなら何で留学するだろうかと自分自身に聞きました。悲しくすることをやめた方がいいのですね。

それでも、私は留学をして良かったと思っているし、半年でもいいから、皆一度は留学を経験した方がいいと考えています。留学中は、自分の国と違う文化に、自分の考え方と違う考え方を持つ外国の人に出会い、世界が開けてくると思います。世界のこちらにもそちらにも友達がいることは中々いいことです。もし私が今から日本・ポーランド・韓国などに行くことになったら、そこには友達がいいます。日本、ポーランド、中国、韓国、マレーシアからの友達がハンガリーに来たら、私は喜んで案内できます。折角だから、ハンガリー人の友達にも、私の留学中できた大切な友達を会わせることもできそうです。

留学前は日本語の授業も、英語の授業も受けたことがありませんでした。最初は政治学などの専門的な話を日本語で理解するのが難しかったですが、ちょっとずつ分かるようになりました。留学のおかげで、英語と日本語の能力がとても上がりました。また、私は高校を卒業した頃、メディアで働きたいという夢を持って大学に入りました。しかし、実際のメディアの世界は私の性格に合わないよ

うです。この不安な気持ちで日本に飛び出しました。現代政策学部はカーロリ大学での専攻と違って、多くの知識を新たに収集しました。日本留学のおかげで本当にやりたいことも見つかることができました。帰国してから、ハンガリーで前に決めたメディア専攻から国際コミュニケーション専攻に変えました。今後は国際的な仕事に就き、日本とハンガリーを繋がる職を目指しています。留学というのはただ「外国で勉強する」ことだけではなく、経験や友達、そして夢をくれて人生を変える可能性を持つ大きなことだと思います。一度は皆に留学体験して欲しいです。

(ズゴル・ヴァレンティナ)





日本語広場の紹介

ヴァシュ 愛、エレク 綾

日本語広場は、基本的に月2回、補習校のある日に同じ場所で行われています。現在、1歳前後から就学前の二重国籍のお子さん達が、平均で10人前後、みんなで一緒に楽しく日本語で遊んでいます。

「日本語で遊ぶ」が目的の日本語広場。毎回、四季折々の日本の文化風習を取り入れ、楽しく遊べるプログラムを考えています。どのように遊んでいるのか、ご紹介いたします。最初は、その日参加してくれた子供たち全員の名前を呼ぶこと。友達の名前を覚えるのにも役立っています。手拍子を交えた簡単な歌で、呼ばれた子にも歌ってもらいます。恥ずかしくなって歌えなくても当たり前で問題なし。その場合、私達係りの者が一緒に歌ったり、ご両親が代わりに歌うこともあります。

次に、日本語の歌を歌います。季節に合わせた簡単な歌をみんなで一緒に歌います。知らない歌でも、一緒に練習して、最後には歌えるようになった歌もありました。クリスマスには「ジングルベル」を練習して、最後にはみんなで歌えるようになってくれました。また、「ひらいたひらいた」や「森の音楽家」を、体を動かしながら歌うこともあります。そのうち「はないちもんめ」のような歌遊びも練習しようと思っています。手遊び歌をすることもあります。「大きな栗の木の下で」、「グーチョキパーで何作ろう」、「茶々壺」などはよく知られている手遊び歌です。

それから、絵を使い、単語の練習をすることもあります。これはみんな大好きで、いつもとても元気よく答えてくれます。大抵、大きなお子さんが先に答えてしまいましたが、小さなお子さんも頑張って答えています。

アクティブに歌いおしゃべりした後は、絵本や紙芝居のお話を聞く静かな時間が続きます。毎回違う絵本や紙芝居を1~2冊読み聞かせます。小さいお子さんにも大きなお子さんも楽しめる絵本や紙芝居を選ぶよう心がけています。全員最後まで静かに座って聞いてくれます。昔話には難しい言葉や言い回しが出てくることもあります。その場合、簡単な言葉に直して理解できるように努力しています。挿絵を指差して、それが何かと尋ねたり、どんなふうにするか説明してもらったり、子供たちに参加してもらい、声を出して日本語で話したり説明してもらったりします。

毎回最後には、工作をやりませう。日本の行事や季節に因んだもので、簡単に作れる物を計画しています。1人で最後まで集中して作り上げる大きな子供たち、ご両親と一緒に初めて使うはさみと悪戦苦闘しながらも楽しく工作している小さな子供たちとさまざまです。出来上がった作品は、みんなに鑑賞します。子供達で作る作品なので、手軽に家に持ち帰れて、部屋に飾れる物をと、いつも工作内容を考えて

います。今年の春は桜の木のちぎり絵でした。みんな自分の描いた木にピンクの紙をちぎって貼り、綺麗な桜の花を一生懸命たくさん咲かせてくれました。嬉しそうにお互いに見せ合ったりする姿を見ると、私達もとても嬉しくなり、次回の工作を考える励みになります。

だいたいこのような内容です。基本的にお部屋の中で広場が開かれますが、お天気の良い日など、校庭に出れる時は、色鬼やだるまさんがころんだなど、外遊びも計画しています。

日本語広場に参加している子供たちは、平日は現地の保育園や幼稚園に通っています。同年齢のハンガリー人のお友達と遊びながら学ぶ言葉の上達の早さというのは、驚くほどです。私の息子を例にしますと、現地の幼稚園に通い始めて数ヶ月の間に、あっという間に日本語がハンガリー語に抜かされてしまいました。幼稚園に通うまでの3年間、私という時間が圧倒的に長かったせいもあり、日本語の理解の方が高かったのにもかかわらずです。遊びの中で学ぶものの方が、子供たちの中に強く残るもだと実感させられました。この経験を踏まえ授業内容を計画しているのですが、毎月2回1時間足らず広場は短い時間です。でも、手遊び歌のように、この広場で初めて聞いたものが今では大好きになり、リクエストするくらいに子供たちのなかに残っているものもあります。たとえ少ない時間であっても、子供たちが興味を持って取り組むものであれば、子供の記憶に残ることを教えられました。

それからもう一つ、日本語広場で子供達と接していて感じたことは、日本語の能力似違いがあっても、共通して「日本の好きな物がある」ということ。それは絵本であったり、アニメのキャラクターであったり、乗り物であったり、食べ物であったり、場所であったりとさまざまですが、その「日本の好きな物」を利用し、これからもっと日本語を覚えていってもらえるように、広場の内容を工夫していく必要があると考えています。

日本の行事、わらべうたなど、素晴らしい日本の文化がたくさんあると思います。

今年の春にたくさんの子供達が幼児サークル、日本語広場を卒業したので、参加する子供達の人数が少し減ってしまいました。日本語広場は、お子さんの日本語能力に関係なく誰でも参加できます。普段インターナショナルの幼稚園に通っている日本人のお子さんでももちろん参加できます。みんなで日本の言葉と文化にふれあいながら一緒に遊び、新しいお友達を見つけることもできるのではないのでしょうか。

興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。見学されたい方も、もちろんお待ちしております。

(ヴァシュ・あい、エレク・あや)



みどりの丘補習校



運動会に参加して
小学6年 上杉 なつき

中学最後の運動会
中学3年生 坂井 実蘭

一番楽しくて、寂しい運動会
中学3年 隅田 理愛

さわやかな秋晴れの下、日本人学校のふれあい運動会が開催されました。私たちブダペスト補習授業校の児童生徒もご招待いただき、とても楽しい1日を過ごすことが出来ました。私は1年前の夏にハンガリーに来て、去年ふれあい大運動会に初めて参加させていただきました。体育が大好きな私は走るのも得意なので、運動会は学校の行事の中で一番好きな行事です。今通っているブリティッシュスクールは運動会がないので残念に思っていました。ですから、去年の運動会から今年の運動会まで指折り数えて楽しみにしていたのです。私は日本では女子校に通っていたので運動会の内容も女子校らしい、おとなしい内容でした。日本人学校の運動会は男子もいて、みんな走るのが速く、とても迫力がありました。とくに組体操は感動しました。私も日本の学校で組体操をしましたが、女子だけなので人が人の上に登るのも2段目まででした。日本人学校のピラミッドは高く大きくて、本当に素晴らしいかったです。下の人は大変さうだなと思いました。また、横で見守っていた先生方の「だいじょうぶだぞ」という表情が印象的でした。みんなで一つのものを作り上げていて「私も、あの仲間に入りたいな」と思いました。私は日本の学校を思い出して、なつかしい気持ちになりました。

(うえずぎ・なつき)

今年は、ぼくにとって9回目の日本人学校ふれあい運動会への参加となりました。

同年代の男子がいないため、最初は退屈する一日となると思っていましたが、意外にも終了後は、わくわくしていた自分に気がつきました。今年の大運動会では、今まで以上に活躍できたのではないかと思います。短距離走、中学部リレー、そして一般リレーにも参加しました。それら全てにおいて納得できる結果を出せたので、ある種の達成感を感じることができました。半面、綱引きでは2連敗してしまい、悔しい思いもしました。ハンガリーの学校では、日本の大運動会のようなものはありません。そのため、このようなみんなが協力して一つのことを創り上げる日本の文化の一つである大運動会に参加できたのは、ぼくにとって大変よい経験になったと思います。

(さかい・みらん)

私の3年目の日本人学校運動会は、今までで一番楽しくて、寂しく感じるものでした。この運動会は、ふれあい運動会という題名がついていますが、本当にその通りだと思います。去年と今年、夏休みに日本人学校に体験で行って、たくさん友達をつくり、その友達などと再会することが出来ました。

運動会は、運動して競争するだけではなく、知らない人やもう知っている人と交流できるコンセプトが、ハンガリーに来て初めて出た日本人学校の運動会で好きでした。もう来年、次に日本人学校の人と会う機会がなくなってしまうと思うと、すごく寂しいです。開会式で旗を持たせてもらった時は、日本人学校の仲間のような気分で嬉しかったです。これからも私だけでなく、たくさんの補習校の生徒が、私のように日本人学校の運動会を好きになってくれたらなと思います。

(すみた・りあ)



日本人学校

今運動会で、私は紅組の応援団長をさせていただきます。今年の運動会は天候にも恵まれ、盛り上がりよかったです。運動会の準備は6月から始まり、夏休み前に、中学部の紅組メンバーと応援の振り付けや言葉などを考えました。

2学期に入ってから小学部を含めた全体練習が始まりました。最初の練習の時、自分では大きな声を出して指示していたつもりでしたが、練習が終わった後、先生方から「あなたはそんなはずじゃない、もっと大きな声が出せるはずだ」と言われました。そこから、恥ずかしがらずに一生懸命頑張ろうと決めました。2回目の応援練習からは中学部の皆が大きな声を出して、小学生を引っ張ってってくれました。他にも、選手宣誓を白組団長の生天目遥



応援団長として経験したこと

輝く人と一緒に考えて練習をしました。そして、自信を持って運動会に挑みました。団長の最初の出番は選手宣誓でした。今まで以上に大きな声を出せてよかったです。そこから、午前の玉入れ、綱引き、大玉送りの競技のうち二つ負けてしまいました。「このままでは負けてしまう」と、私は少し焦っていました。そして、午後の最初のプログラム、応援合戦で巻き返そうとしました。応援の順番を少し間違えてしまいましたが、これまでの練習成果が出たのか、皆で元気よく、発表できました。応援が終わった後は、正直ほっとしました。次に、組体操がありました。組体操は団長とか関係なく小学5年生から中学2年生までが一致団結して成功させることができました。その後の競技では紅組が挽回し、リレーは1位、2位で

渡辺 一輝

した。その結果は、紅組が優勝でした。メダルをもらった時の皆の笑顔はとても嬉しそうでした。私は、その笑顔を見て「団長をやった甲斐があったな」と心の底から実感しました。私は今回の運動会を通して、いろいろのことを学びました。人前で話す程よい緊張感、皆をまとめることの難しさ、計画性を持って行動する、協力することの大切さを学びました。団長という経験をこれからの教訓として、普段の生活の中でも頑張っていきたいです。まだまだ足りないところもあると思うので、これから、皆と一緒に協力しながら、いろんなことに挑戦していきたいです。そして、みんなに頼られるリーダーとして成長していきたいです。

(わたなべ・かずき)

白組団長として

僕は、平成27年度ブダペスト日本人学校ふれあい大運動会の白組団長を務めさせていただきました。団長に選ばれた時、とても不安でした。なぜなら、僕は、どちらかというと、みんなをまとめたり、みんなの先頭に立ったりすることが苦手だからです。その心配が的中して、練習の始めの方では、あたふたするばかりでした。応援練習を要領よく進めることができず、とくに振り付けの指導のところでは、同級生の友達の力を借りてようやく前に進めるといいう有様でした。もっと自分がしっかり小学部の子たちに指示を出さなくてはという気持ちで一杯でしたが、なかなか思う通りにはいきませんでした。日がたつにつれて、体形移動など

の指示がだんだんできるようになってきました。また、先生方からたくさんのアドバイスをいただきながら、練習を重ねる度に団長としての意識も高まりました。そうして迎えた運動会当日、気持ちがいい程晴れて、いい天気でした。僕も「今日こそはやるぞ」という気持ちになりました。最初の大仕事である紅組団長と一緒に選手宣誓は、大きな声でしっかりできました。いよいよ応援合戦です。エール交換のところ、「紅組にエールをおくる」と言わなければならないところを、「白組にエールをおくる」と言ってしまいうほど緊張していました。でも、振りを大きくでき、これ以上ないくらい声をだして、リー

生天目 遥輝

ド出来ました。僕としては、大満足でした。紅白の勝負では負けてしまいましたが、自分の力を出し切り、練習当初のつまづきを本番で返せた気がしました。困った時に助けてくれた友達、協力してくれた応援団員には本当に感謝しています。みんなの支えがあったからこそできました。次は自分が友達を支えられたらいいと考えています。自分としては、また一歩成長ができたよい運動会だったと思います。

(なまため・はるき)

2015年日本人学校運動会全体写真



日本語広場の子供たち



エゲラーグの道場—メモリアル木柱の前で



運動会に参加した補習校の子供たち



コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

コルナイ・ヤーノシュ自伝

—思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円（税込） ◆A 5 判 / ISBN 4-535-55473-0  日本評論社



体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学部の定番テキスト。体制転換の理論と転換直後の現状を分析。各大学で教科書として使用。

盛田常夫著

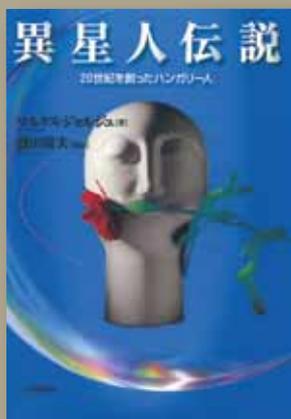
第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の比較分析に新たな視点を提供。

第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円（税込） A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行一橋大学教授)で書評。
ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

ポスト社会主義の政治経済学

体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著 日本評論社 定価3800円

